

思ひ草

第45号

令和6(2024)年11月29日 発行

事実に基づいて多面的・多角的に考え、 物事の本質を見極める

やすの いさお
初等教育学科教授 安野 功



「社会科教育」という言葉の意味を考えてみよう。社会科関連の科目において、私は必ず学生にそう問いかけてきた。社会科の学習を通してどのような教育を行うのか、どんな人間を育てるのかを常に念頭に置いて、学び続ける教師を目指して欲しいからである。

ところが、言うは易く行うは難し。社会科専門の私らしからぬ単純な迷路に迷い込んだ。ガンから命を守る食事の仕方に関する書籍のどちらの主張が正しいのかという迷いである。

1冊目：野菜スープの力。ガン患者も常備野菜スープで延命。野菜の力と恵みはファイトケミカル、その栄養を効率よく吸収するには生野菜より煮て食べる野菜スープ！

2冊目：食事は生野菜から。朝食の基本は生野菜と果物だけ。健康な体の源は酵素の力。豊富なビタミンやミネラルも酵素がないと宝の持ち腐れ。酵素は生野菜や果物にたっぷりと含まれるが熱に弱く、加熱した料理や加工食品には含まれていない。

細胞のガン化を防ぐには野菜の力が効果的である。それは両者共通だが、煮て食べるのか生で食べるのか。前者はノーベル賞候補の世界的権威、前田浩氏、後者はアメリカ最先端の酵素関係の理論に基づく鶴見隆史氏の主張であり、両者は真っ向から対立している。でも待てよ。いずれの主張も“野菜の栄養を効率よく吸収して免疫力を高める”ことが究極の目的であり本質である。前者は「栄養の吸収学」、後者は「酵素栄養学」という各専門の立場から持論を展開しているのだ。そのどちらも正論だからまず生野菜、次に野菜スープという順でどちらも食べればガン免疫力は必ずアップするに違いない。社会的な解決策である。

『事実に基づいて多面的・多角的に考え、物事の本質を見極める』人間を育てる。それが社会科教育固有の役割の一つである。野菜の食べ方と健康な身体づくりの関係をめぐる迷路を彷徨う中で、社会的な問題解決の大切さを再認識できた身近な出来事である。

かかわりを通して、理解すること

ゆうき たかはる
子ども支援学科教授 結城 孝治



大学での授業とは別に、幼稚園や保育所等での、いわゆる発達の「気になる子」についての相談の依頼を受けて、園に訪問して保育の様子を「見させてもらって」、助言等も、かれこれ20年程しております。「見させてもらう」と書きましたが、この「見る」という行為が、本当は、非常に難しいということ、あらためて「見る」とはどういうことなのかを、コロナ禍の訪問で経験しました。

コロナ禍の訪問では、保育者も子どもたちもマスクをし、部外者である私のような訪問員は、基本的には、部屋の隅のほうに座して、そっと様子を「見る」というものでした。その後の、担任の保育者や主任、園長とカンファレンスでは、「たぶん、…」「おそらく、…」を連発することになりました。仕事柄、何かしらのコメントを残さなければならぬのですが、正直に申し上げれば、「すみません、わかりません」というのが本音でした。よく見ているのに、子

どものことがよくわからない。不思議なことでした。

かかわることによって、見えていたんだ、という実感をつかめたことが、私にとってのコロナ禍での副産物でした。傍観者として、その場においても、その場で起きていることの意味、子どもの思い、保育者の願いはわかりません。その場で起きていることを、“肌感覚”で捉えようとする姿勢が大事であるということに、あらためて気づかされました。

学生が、教育現場、保育現場に出向くとき、大学で教わったことは、ちょっと脇に置いておいて、感覚を研ぎ澄まし、自分の振る舞いと、子どもからの応答に全集中してほしいと願っています。さらに、一步すすめて、子どもの立場に身をおいて、子どもの“肌感覚”を体験してきてほしいと思います。知識や、想像や憶測ではなく、実感として、かかわりを通して。

教育実習

特別支援学校での教育実習生の創意工夫

初等教育学科教授 しばた やすゆき
柴田 保之

私の教育実習の訪問指導は、特別支援学校が中心となる。特別支援学校の授業の特徴は、通常の学校に比べて、学校や先生方の自由裁量の幅が大きいことだ。研究授業に際しても「教科書のこの範囲を」というような言い方はされない。したがって実習生に創意工夫に委ねられる部分も大きくなる。関わった経験の少ない障害のある子どもたちに対して未経験の授業をするのだから、「授業技術」にだけしげると、とても困難なことに取り組んでいることになる。ところが、実際に研究授業にうかがうと、すばらしい光景に出会うことが少なくない。それは、一人一人の子どもたちの顔を思い浮かべながら、想像力の羽をいっぱい広げて、時には悶々としながら、教材の工夫や進め方の工夫を考えた結果、生まれたものなのだろう。

きっと授業技術については、先生方はおっしゃりたいことは山ほどあるにちがいないのだが、いい授業であればあるほど、授業の検討会の中での先生方の話し合いは、授業の中で見られた子どもたちの話になっていく。実習生が懸命に作り上げた授業の中には、子どもたちについての新しい発見があるようなのだ。すぐれた授業技術はなくても、子どもたちに対して何とかわかり合いたいという熱い願いが届いて、先生方でさえ知らない姿がそこに現れるということなのではないだろうか。

特別支援教育の免許は、正確には「特別支援学校」の教員の免許だが、通常の学校の先生を目ざしていても、特別支援教育のことが少しでもわかる先生になりたいという思いの学生が少なくない。私は、そういう学生には、熱い願いをもって臨んだ授業で、新しい可能性を発揮した子どもたちのかけがえない姿をしっかりと心に刻んで、先生になってもらいたいと思う。そして、もちろん特別支援学校の先生を目ざす学生にとっては、ここが出発点だ。障害児の教育は、教育の原点だと言われることがあるけれど、ここにも原点の一つがあるのかもしれない。

実習体験で得られた教師のやりがい

初等教育学科 3年 ふじさわ たいが
藤澤 大河

教育実習による体験は、教師を志す私にとって大きな学びになり、貴重な体験となった。私の担当した四年生の学級には個別級在籍の2名を含め、全員で29名の児童が在籍する。このクラスは元気で明るい反面、授業でのけじめがつかない様子や乱暴な言葉遣いが見られた。私が「おはよう」と出迎えても返事がなかったり、端末でゲームをしている児童を注意すると、反発されたりもした。

私は、教壇実習における課題をたくさん見つけることができたが、「児童との関係改善」を最も注目したい課題として位置づけた。私はこの課題を解決するために厳しい姿勢や優しい態度といった様々な関わり方に挑戦した。様々な関わり方を試行錯誤した末、最も手応えがあったのは、粘り強さをもって関わることに寄り添うことである。挨拶などの人との関わりで大切にしたい態度についてはめげずに行動をしたり、端末でゲームをしている児童に対しては注意するだけではなくて、授業内容の理解ができるように一緒に考えたりするといった関わり方をした。それから、少しずつ児童に頼られる場面が増えていったように思える。また、私は児童との関わりの中でとても嬉しかったことがある。それは、特に男性教師を敵視していた女子児童に「藤澤先生はなんか違う」と言われたことである。その言葉で、これまで試行錯誤してきたことが報われたような気がしたのと、その子が信頼できる教師として私を認めていることを実感できた。全児童との関わりにおいて課題が解決できたわけではないけれど、私にとって教師という仕事のやりがいを感じられるよい体験になった。

私はこの実習を通じて、児童について考え向き合い続けることの大切さを実感することができた。このクラスだったからこそ、知ることができた児童の実態や、体験することができた教師のやりがいがあった。そのため、よい実習体験ができたと感じる。欲を言えば、別れを惜しんでくれるクラスで実習を行ってみたかったが、それは今後、実際に教師になって体験することができるよう、これからも学び続けていきたいと考える。

教育インターンシップ

専門家の保育を体感できる機会

子ども支援学科 2年 おおたに りさ
大谷 里彩

今年の5月、私にとって初めての教育インターンシップが始まった。およそ2か月にわたって先生のねらいで溢れる保育環境の中でインターンを行い、日々新しい気付きや学びを得ながら自分の保育観が深まっていくことを実感した。

今回、私は主に3歳児クラスに入らせていただき、自分なりに子どもの行動の背景を読み取って子どもと接したり、先生の保育のやり方や援助を間近で見ることで先生の保育観を学んだりしてとても有意義な時間を過ごした。特に今回の教育インターンシップでは、自分なりに子どもの姿を捉えるだけでなく、先生がどのように子どもの姿を捉えているのか、それに基づきどのような援助を行っているのか学ぶことが出来たので、自分の保育観を見直すきっかけや自分も真似したいと思えるような先生の関わりに出会えた。

例えば、紙芝居の読み聞かせの前に、先生が姿勢の良いお友達に「○○さんとっても良い姿勢だね」と声をかけ、周りの子どもも素敵な姿勢になりたくなるような関わりをしていた様子を見て、私は紙芝居を始める環境を素早くつくる保育者の意図があると考えた。しかし実際に先生に尋ねると、先生の関わりの意図は子ども達全員が「何か楽しいことが始まる」と興味を示して楽しめるようにすることだったと分かった。そして「姿勢の良い子を褒める」という一つの関わりを見てみても、保育者の都合に合わせる考え方もつか子どもの楽しいを支える考え方もつかで具体的な声掛けや引き出される子どもの姿が大きく変わることに気付いた。

このように、私は教育インターンシップを通じて、保育を行ううえで基盤となる考え方が子どもの姿に与える影響の大きさを実感した。また今回の教育インターンシップでは、担当の先生をはじめとする子どもに関わる大勢の大人に憧れの気持ちを抱くと同時に、自分ももっと憧れの存在に近づきたいと思いながらもできないもどかしさを感じ、進路と向き合う自分の姿にも気づくことが出来た。改めて保育者になりたいと思った気持ちも含め、約2カ月の経験で感じたことや学んだことを忘れずに今後も学修に取り組み、自分の保育観を更新し続けたいと思う。

教育インターンシップ連絡協議会

令和6年7月9日(火)16:00~17:00に令和6年度教育インターンシップ連絡協議会をオンラインで、開催いたしました。今年度、教育インターンシップに関わる学生は、子ども支援学科63名、初等教育学科103名、健康体育学科24名、計190名おります。

当日は、教育インターンシップ受入れ校・園の先生方が23名出席してくださいました。

まず、結城孝治副学部長より教育インターンシップの目的と受入れ校・園の先生方への感謝の言葉がありました。その後、大学のスタッフ紹介がなされ、今年度の教育インターンシップの実施状況について、幼稚園・児童福祉施設については、中野圭祐先生、小学校については、小笠原優子先生、中・高等学校については、植原吉朗先生より報告がありました。すでに教育インターンシップの実習が始まっている学校・園の先生方からは、どのような実習を行っているか、また学生の実態などについてご意見、ご感想をいただきました。大学にとっても、実習のあり方を考える上で貴重な情報交換になりました。

最後に今後の教育インターンシップ関わる手続きや単位認定等についての説明を行い、次回は令和7年1月23日に「第2回教育インターンシップ連絡協議会・報告会」を実施することを伝え、閉会となりました。

教育実践総合センター 夏季教育講座

令和6年8月1日開催

集いから感じる広がり可能性 ―夏季教育講座を振り返って―

教育実践総合センター長 こん どう よし ひこ 近藤 良彦

第15回夏季教育講座國學院大學教育実践フォーラムは、第14回に引き続き『令和の日本型学校教育』を考える』をテーマに行われた。山梨大学教育学域准教授三井一希氏に今回のサブテーマである“Society5.0時代における子どもの学びと学校づくり”について基調講演を行っていただいた。当日は小学館の取材があり、この模様は教師のための教育情報メディア『みんなの教育技術』のウェブサイトにも掲載されている*。



國學院大學教育実践フォーラムは教育行政からも評価されており、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横須賀市教育委員会、渋谷区教育委員会、品川区教育委員会の後援をいただいている。深刻な教員不足の打開が急務となっている現状においても果たす役割は決して小さくないであろう。今回のフォーラムには現役の高校生から2名の参加があった。初めてのことであり正直驚きもあったが、将来の学校教育を担う若者が興味関心を持ってくれたことはとても嬉しい。

初回から16年を過ぎる間に徐々に徐々に認知され、想定を超えて広がっていたようである。毎年毎年植えてきた種子が地中で育ち芽吹き始めているのが感じられた。



このテーマで行うのは今回と前回の2カ年である。この場を借りて少し振り返りたい。今回の参加者は教職員

スタッフも含めて340名となった。分科会が5つ開かれて参加者数は、第1分科会「幼児教育」41名、第2分科会「国語」27名、第3分科会「理科」121名、第4分科会「体育・保健体育」61名、第5分科会「道徳」56名であった。基調講演はオンラインでも配信されて25名の参加があった。前回は“個別最適な学びと協働的な学びの実現”のサブテーマで行われている。分科会は6つ開かれて441名の参加があった。各分科会においては、第1分科会「保幼小接続」45名、第2分科会「音楽」17名、第3分科会「体育・保健体育」48名、第4分科会「道徳」77名、第5分科会「特別活動」138名、第6分科会「特別支援教育」31名となっている。また、オンライン参加は78名である。今回は前回に比べて分科会が1つ減っていることもあって参加者数は100名ほど少なくなっているが、その約半数はオンライン参加の減少によっている。



最後に、今回も前回も学生スタッフの活躍は素晴らしかった。受け身ではなく自ら行動しさらに学び取っていく姿を見ると、学生のためにあるのだなとつくづく感じさせられた。終わった後のあのすがすがしい笑顔が目について離れない。

* <https://kyoiku.sho.jp/333425/>